

当科における胆道癌に対する洗浄細胞診の意義の検討

1. 研究の対象

西暦2011年1月1日より2022年12月31日までの間に、一般・消化器外科にて胆道癌の診断または治療のために入院・通院し、診療を受けた方

2. 研究目的・方法

胆道癌は一般的に治療が難しい「難治癌」として知られています。最も有効な治療法は手術による切除であることが多く、これまでも手術された症例についての情報蓄積によって技術・戦略ともに発展してきましたが、まだまだ向上する余地がある分野です。また一方で、化学療法・放射線療法などの技術の進歩により、手術だけでなくそれらを用いた集学的治療も行われています。今後も研究によって、さらなる病態解明や治療法の開発・向上が求められています。そのため我々は、胆道癌に対して上記の期間に手術を受けられた患者様の情報を集め、統計学的に検証を行うことを目的としております。今回術前検査可能なデータをもとに手術中の腹腔洗浄細胞診の意義の検証を行います。患者様の情報をデータとして集め、より正確な情報を発信していきたいと考えています。

研究実施期間：倫理委員会承認後～2023年9月30日（予定）

3. 研究に用いる試料・情報の種類

過去に治療された患者様の診療録・画像データを閲覧し、データを集積した後に解析を行います。患者さんの診療録のみを使用させていただくため、患者さんに新たなご負担をおかけすることはありません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

石井政嗣〔研究責任者〕

栃木県立がんセンター

所属 肝胆膵外科

〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南 4-9-13

TEL 028-658-5151 FAX 028-658-5669